

開催日：2019年11月16～17日 開催場所：筑波サーキット コース1000 格式：国内
主催：THE・MC [クラブ登録No.加盟10055]、T-SPIRIT [クラブ登録No.加盟11056]

フォト／関根健司、JAFスポーツ編集部 レポート／JAFスポーツ編集部

トヨタ・86やBRZ、ロードスターがひしめくPN2クラスは本大会最多の29台が参加。最終ゼッケンの若林隼人選手が全日本の力を発揮して優勝した。



エントリー29台の激戦クラスPN3は若林隼人BRZが頂点に!

全国からスラロマーたちが筑波サーキットのコース1000に集結! 11月9～10日に開催されたJAFカップオールジャパンジムカーナには、全日本上位ランカーと各地区を代表する蒼々たるドライバーが総勢150名以上も参加。普段は相まみえることのない全日本ドライバーと地区戦ドライバーが、ジムカーナのテクニックを競うにふさわしい場となった。

この開催期間は両日とも晴天に恵まれ、11月というのに汗ばむくらいの陽気。路面温度は25～30℃くらいで、タイヤ選択が悩ましいところ。筑波サーキットコース1000のフラットな路面特性を活かしたハイスピードなコースとし



つつも、序盤と終盤にパイロントーンが集中したテクニカルさも併せ持つレイアウトとなった。今大会クラス最多の29台がエントリーしたPN3クラスは、東北、関東、中国、四国、九州の5地区のチャンピオンも勢揃いした混戦状態。1ヒートめで四国1位の徳永秀典選手が1分9秒798を叩き出して暫定トップに立つと、



PN3 / 1.上位入賞の皆さん。2.徳永秀典選手がコンマ164差で2位。3.3位にはロードスターを駆る松本悟選手が入賞。



他地区のチャンピオンたちが1分11～12秒台で苦戦している中、最終ゼッケンの若林隼人選手がコンマ314上回る1分9秒484をマーク。続く2ヒートめ、若林選手は自身のタイム更新には及ばなかったものの、他選手がこの記録を破ることができず、JAFカップ初優勝をキメた。



PN4 / 4.奥井優介選手が1分7秒台のパーフェクトな走りで優勝。5.2位は1分8秒台で食らいついた柳瀬昌樹選手。6.石黒義弘選手は3位。7.上位入賞の皆さん。



8.PN1クラス優勝の齊藤邦夫選手。9.工藤典史選手はPN2クラスで優勝。10.SA1クラス優勝の小武拓矢選手。11.有沢圭祐選手はPN1クラス2位。12.PN2クラス2位の勝野佑紀選手。13.高屋隆一選手がPN1クラス3位。14.PN2クラス3位は稲木亨選手。15.近藤岳士選手はSA1クラス3位。16.SA2クラス3位の水野俊亮選手。17.宮里佳明選手がSA3クラス3位。18.SA4クラス3位は石原秀晃選手。19.阿戸幸成選手はSA1クラス2位。20.SA2クラス2位のSHUN選手。21.若林拳人選手がSA2クラスで優勝。22.SA3クラス優勝は渡辺公選手。23.岡部隆市選手はSA4クラスで優勝。24.SA3クラス2位の小林純選手。25.米田順一選手がSA4クラス2位。



「今まで苦しい戦いが続きました……。『(若林)拳人さんのお兄さんなんです？ お兄さんもジムカーナされていたんです』というのが見え隠れしていたんですけど、やっと結果が出て本当に良かったです。来季はチャンピオンを目指して頑張ります」と若林選手。

一方、弟の若林拳人選手はSA2クラスにエントリー。1ヒートめのスタート直後にドライ

ブシャフトが折れてしまいDNF。2ヒートめは各選手が1分9秒台の更新ラッシュが続き大接戦となっていたが、若林選手は唯一1分8秒895でベストを出して逆転優勝。こちらも初のJAFカップ獲得を喜んだ。

若林兄弟を始め、若手選手の快進撃も見逃せない。エボXを駆る奥井優介選手は、父親とのダブルエントリーでPN4クラスに挑んで、1分

7秒080のオーバーオールウィンを達成。圧倒的な速さで文句なしの優勝をもぎ取った。

長きに渡ってJAFカップへ挑戦し続けた選手が、嬉しい初栄冠を手にした。SA1クラスの小武拓矢選手とSA4クラスの岡部隆市選手だ。昨年は惜しくもJAFカップ2位だった小武選手は通算8回目の挑戦で、「全日本では(2位や3位が多くて)ずっとモヤモヤした気持ちでし



26.PN1クラス上位入賞の皆さん。27.PN2クラス上位入賞の皆さん。28.SA1クラス上位入賞の皆さん。29.SA2クラス上位入賞の皆さん。30.SA3クラス上位入賞の皆さん。31.SA4クラス上位入賞の皆さん。32.SCクラス上位入賞の皆さん。



33.SCクラス2位は町田和雄選手。34.西田竜治選手はSCクラス3位。35.SCクラス優勝の佐藤英樹選手。36.渡邊千尋選手がWomanクラスで優勝。37.Womanクラス2位は河合豊美選手。38.めい選手はWomanクラス3位。39.NTFクラス優勝の根岸裕選手。40.植松富雄選手がNTRクラスで優勝。41.NT4クラス優勝は千葉真一選手。42.関谷光弘選手はFDクラス優勝。43.FDクラス2位の小泉博司選手。44.安田和也選手がFDクラス3位。45.箱Dクラス優勝は松本敏選手。46.川脇一見選手は箱Dクラス2位。47.箱Dクラス3位の津川信治選手。48.Womanクラス上位入賞の皆さん。49.NTFクラスの表彰台。50.NTRクラス上位入賞の皆さん。51.NT4クラスの表彰台。52.FDクラス上位入賞の皆さん。53.箱Dクラス上位入賞の皆さん。

たが、今回の2本目で満足いく走りが出てスッキリしました」と語った。中部1位の岡部選手は「JAFカップへの挑戦は通算6〜7回くらいでしょうか……。長くやっていたら良いこともあるんですね」と涙ぐんだ。

ヨコハマユーザーの優勝が目立った本大会、PN1クラスの斉藤邦夫選手やPN2クラスの工藤典史選手が全日本ドライバーの実力を発揮し

てJAFカップを手にした。他3クラスでもヨコハマタイヤを履いた選手が勝利。

JAFカップに設定されているWomanクラ

スは6名による対決。1ヒートめでまさかのミスコースを喫した渡邊千尋選手は、「1本目をすべて走り切れずに後半セクションの状況が分からない中、とにかくイメージを固めてタイムを残すことに専念しました」と2ヒートめに臨み、プレッシャーを跳ね除けて2位以下に5秒以上の大差をつけて優勝した。

SA3クラスでは全日本4位の渡辺公選手が勝利を手にした。SCクラスは東北1位の佐藤英樹選手が優勝を果たした。

JMRC 地区対抗戦

北海道から九州まで8地区に分かれ、JAFカップ各クラス上位入賞者のポイントで競い合うJMRC地区対抗戦。3位はJMRC中部、2位はJMRC北海道/四国/九州の連合チーム、1位はJMRC東北となった。植松聖史ジムカーナ部会長が代表して優勝旗を受け取り、「東北が地区対抗戦で単独チームで勝つのは記憶にないのですが……。東北のドライバーが3人も勝ってくれたおかげです。来年も頑張ります!」とコメントした。

